

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No. 7

2006. 4. 15

発行／市民活動サポートセンターいなぎ
運営協議会

事務局／〒206-0822

稻城市東長沼2112-1
稻城市地域振興プラザ1F
市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112
FAX042-378-6971

E-mail:info@i-inagi-support.org
<http://www.i-inagi-support.org/>

いなぎ市民活動フェスティバル2006

広げよう市民活動の輪

「市民活動サポートセンターいなぎ」は開設以来1年が経ちました。そこで一周年を記念し、“広げよう市民活動の輪”をテーマに「いなぎ市民活動フェスティバル2006」を下記のとおり開催します。

すでに市民活動を行っている方（団体）、これから何かしたいと思っている方など、どなたでも参加できますので、ぜひお申し込みください。

なお、資料代として実費が、交流会に参加される方は、別途参加費が必要となります。

■日時 5月14日(日) 10:00～15:00

■会場 稲城市地域振興プラザ4階

■主催 いなぎ市民活動フェスティバル2006実行委員会
市民活動サポートセンターいなぎ運営協議会
稻城市



▲昨年5月15日に行われたオープニングイベント

【第一部 講演会】

10:00～12:00

◇テーマ／市民活動が地域を変える

◇講 師／山岸秀雄氏

(NPOサポートセンター理事長)

【第二部 交流会】

13:00～15:00

●申し込み・問合せ／市民活動サポートセンターいなぎ（稻城市協働推進課内）

☎042-378-2112

いま、金曜サロンスペシャルが面白い！

●夢のまちづくり・コミュニティづくり

3月の金曜サロンスペシャルは、坂井力さん（当サポートセンター運営協議会メンバー）にまちづくりの話をしていただきました。

◆ ◆ ◆
最初は、湯布院町（現大分県由布市）についてです。

ここは市民が実行委員会を作つてお祭りなどイベントを始めた。それが有名になって来訪者が増えたので、現在は毎月のよつに開催されている。まちづくりのコンセプトは、農業と観光、文化の共存する温泉保養地です。このコンセプトが生まれる過程では、若者たちによって徹底した話し合いがなされ、それがまちづくりの原動力になつていつた。

こうした努力が実つて年間400万人の観光客が訪れるようになり、湯布院に住みたいといつ人もたくさん出てきたの

で、更に湯布院が盛り上がりつつある。といった相乗効果が生まれ、現在の湯布院に至つたということです。

◆ ◆ ◆
次は、神戸市長田区の真野地区ですが、ここは下町のような地域なので、公害追放運動から始まつたそうです。公害を出さないまちをめざし、公園などの緑化を住民が主体となって行政と協働しながら進めていつた地域です。このような活動があつたので阪神大震災の復旧に際しても迅速に対応できたということでした。

◆ ◆ ◆
最後に、稻城市若葉台についてですが、坂井さんご自身が考えるまちのイメージは、

- ホタルとカブトムシとオオタカの街
- 新たな文化を育み発信する街
- 子供たちの豊かな心を育む街

三月

- エコタウンと町並み景観を育む街
 - ローカル経済システムの確立
 - 高齢者が安心・安全に暮らせる街
 - お互いが支えあう豊かなコミュニティを育む街
 - 自由と人権が尊重された豊かな自治を育む街
- などが考えられる……ということです。

また、開発するにしても緑の価値や自然環境に配慮されていることが大切で、ホタルが飛び交いカブトムシのいる団地といつのは、今の時代すごく資産価値が高いのではないかと思う……ということでした。

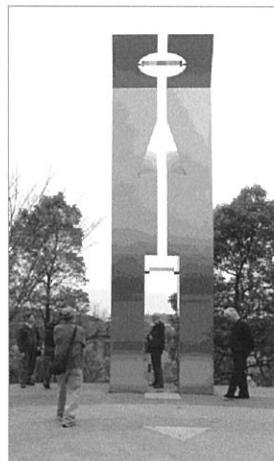
◆ ◆ ◆
今回の話では、まちづくりや地域づくりでは、市民が自分たちの力で思いを実現していくことが大切である……と教えていただきました。

（川本）

稻城は奥が深かった！

3月26日に実施した まち歩きに33名が参加

サポートセンターといなぎエコ・ミューゼとの共同企画事業、「稻城のまち歩き」第一弾が3月26日に行われました。テーマは「パブリック・アートを探して歩く」でした。参加者からは“楽しかったなあ！”と大好評で、早くも次回のまち歩きに期待が寄せられています。



◀ エッ！こんな彫刻があったの？
(長峰、光の広場にて)



▼稻城最高地点“見晴らし緑地”で記念撮影



▼終了後に食事をしながら交流（城山公園で）

●サポートセンター 平成17年度事業報告●

みなさんのご協力で 活動の輪が 少しづつ広がっています。

市民と行政が協働して運営にあたってきた「市民活動サポートセンターいなぎ」が、この4月で1周年を迎えました。

この1年は、サポートセンターが市民の中に定着することを重点的目標として、様々な事業に取り組んできましたが、お陰さまで、少しづつ活動の輪が広がってきています。

以下、平成17年度に取り組んだ事業を報告いたします。

市民活動相互交流促進事業

■交流事業

- ・5/15：オープニングイベント
- ・2/4：利用登録団体交流会

■金曜サロンスペシャル

- ・10/7：第1回「水のはなし」
　　話し手 藤森敬三さん
- ・11/4：第2回「私が見た中国の
　　稲城」
　　話し手 石田錠二さん
- ・12/2：第3回「デンマークに学
　　ぶ子育て文化」
　　話し手 角田亨さん
- ・1/13：第4回「地球環境について」
　　話し手 須藤智徳さん
- ・2/3：第5回「スワンで働く障害
　　者への支援」
　　話し手 大森八恵子さん
- ・3/3：第6回「若葉台のまちづくり」
　　話し手 坂井力さん

■金曜サロン（定例）

前記は毎月第1金曜日に実施しましたが、それ以外の金曜日

にも、市民活動に関心のある方々の出会いの場として、定例の金曜サロンを開催しました。

市民活動支援及び相談事業

■NPO講座

これからNPO活動を始めたい方を対象に行いました。

【入門編】 講師：大川新人氏

- ・9/15：第1回「ボランティア・
　　NPO活動の楽しみ方」

- ・9/22：第2回「成功するNPO、
　　失敗するNPO」

- ・9/29：第3回「さあ！起業しよう」

【実践編】 講師：内藤純氏

- ・11/12：「誰にでも分かるNPO
　　の会計」

【体験編】

- ・1/25

①NPO法人取得に至る具体的な手順の説明

②現在活動中の市内のNPO
　　法人を立ち上げた方たちの
　　体験発表

市民活動に関する情報収集 及び提供事業

■ニュースレターの発行

隔月に発行し（計5回）、サポートセンターいなぎの事業紹介や市内活動団体の紹介、その他市民活動に関する各種情報を発信しました。

■チラシの配布

各イベントや講座に合わせ配布し、PRしました。

■ホームページの運営

サポートセンターの活動だけでなく、市内の社会貢献活動団体を紹介したり、団体の情報発信の場としても活用しました。

市民活動団体や行政との 協働事業

- ・10/22、23：「Iのまちいなぎ
　　市民祭」への参加・・・
　　サポートセンターや各団
　　体を紹介しました。

- ・3/26：タウン・ウォッチング
　　・・・「共同企画事業」と
　　して、いなぎエコ・ニュー
　　ゼと協働で実施しました。

施設及び機器の提供

ミーティングコーナー・図書
コーナー・パンフレットスタン
ド・レタークース・展示コーナ
ー・印刷機・コピー機・紙折り
機など

市民活動の調査研究

- ・2/8：NPOセンター鎌倉の視察
　　研修

運営協議会

ほうこく

役員会・全体会

2月15日（水）に役員会・運営協議会を、2月20日（月）に臨時運営協議会を、3月13日（月）に役員会・運営協議会を開催し次の事項について協議しました。

2月15日

【センター運営について】

- ① 利用登録申請団体の承認
 - ・知的障がい者支援ネットワーク
 - ・フォトクラブいなぎ
 - ・手をつなぐ親の会（梨の実福祉作業所）
- 以上3団体
- ② 各部会・事務局・NPO

法人設立準備委員会の報告

【事業企画について】

- ① 金曜サロンスペシャルについて
- ② ニュースレター6号発行について

2月20日

- ① 法人設立準備委員会提案の「定款」について

- ② タウンウォッキングの傷害保険について

3月13日

【センター運営について】

- ① 利用登録申請団体の承認
 - ・NPO《子どもの森》芸術振興基金
 - ・いなぎ おはなしの会
- 以上2団体

※17年度登録団体数：29団体

- ② 各部会・事務局・NPO法人設立準備委員会の報告

③ 事務局新体制について

【事業企画について】

- ① 17年度の事業報告書について
- ② 18年度の事業計画書について
- ③ 金曜サロンスペシャルについて

【その他】

18年度の会費について

● NPO法人の取得に向け準備を進めています。

運営協議会では、現在、会の中に法人設立準備委員会を設け、NPO法人取得に向けた準備を進めています。

法人化は、この活動に誰もが会員として参加できるよう、その条件を整えるために行うものです。また、まちづくりのための市民活動を、息切れさせず、継続させるためにも法人化は欠かせないと考えています。

これからも、随時その進ちょく状況をお知らせします。

「サポートセンター」が発足してはや一年が経ちました。
おそるおそるドアをたたき参加した私でしたが、ニュースレターやホームページの作成などにスタッフとしてどうにか歩んできました。
今まで「社会貢献活動」「まちづくり」にあまり縁の無かつた私にとって、サポートセンターでの活動はとても新鮮でした。年代も環境も違つただけではできない出会いの機会を持つことができたと思います。そこで様々な意見や考え方方に接し、感心し、驚かされました。その中で自分自身が成長しているのを実感できたのはとても幸せなことです。
人と人との輪が広がるといつことは人生の充実に繋がっているのですね。

これからもサポートセンターでは多彩な講座やイベントの企画を予定しています。みなさんの参加をお待ちするとともに、その内容をニュースレターを通じて皆さんにお伝えできればと思つております。（秋廣）

編集後記